

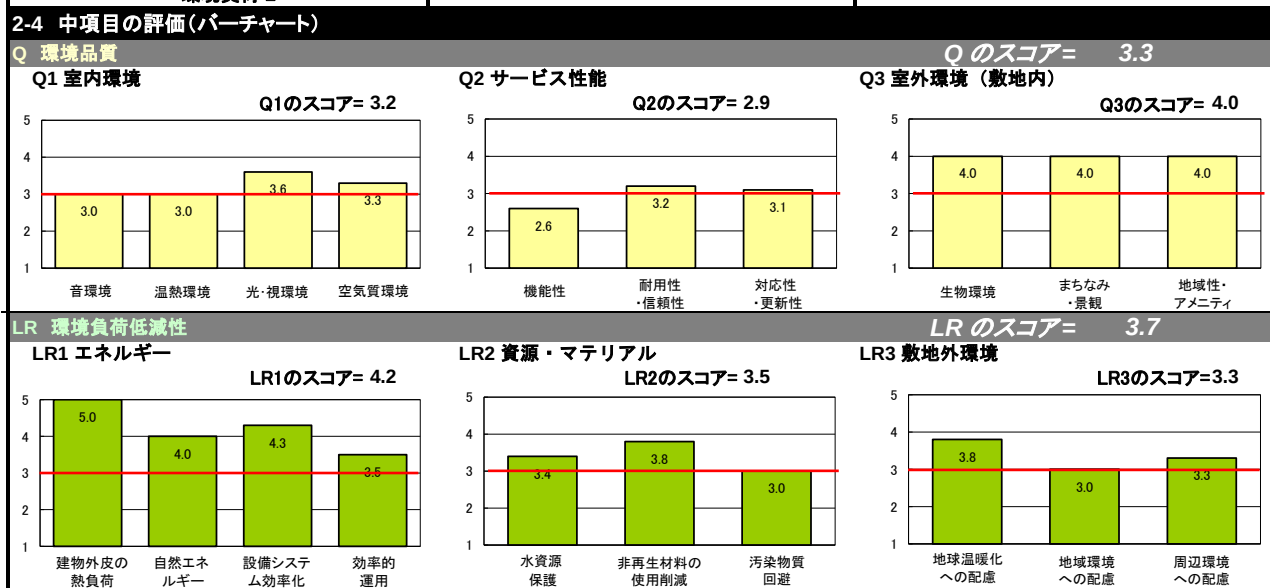
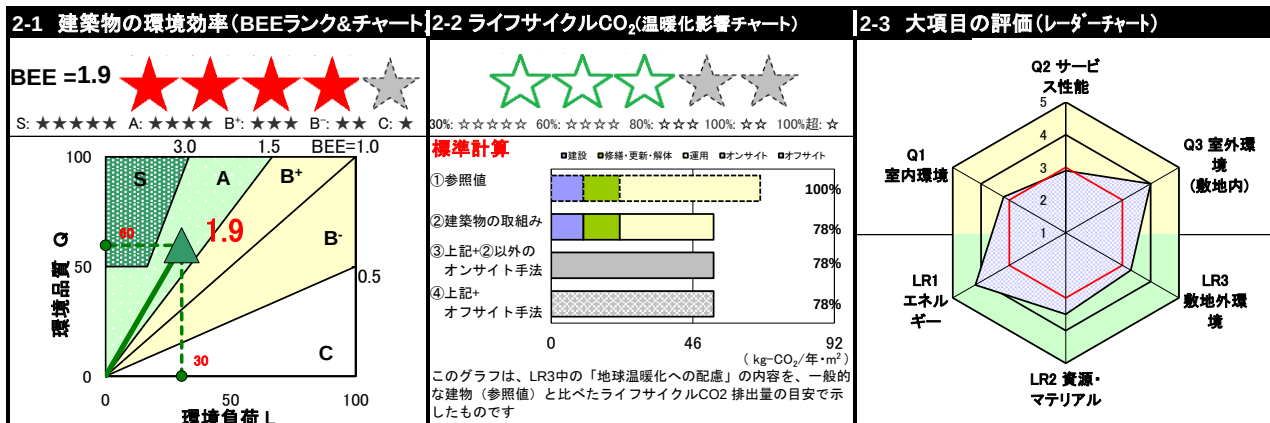
CASBEE® 名古屋

■使用評価マニュアル：CASBEE 建築環境総合性能評価システムマニュアル

使用評価ソフト：CASBEE Nagoya_2016(v3.0)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	相山女学園大学／(仮称)125WEST計画新築工事	階数	地上7F
建設地	名古屋市千種区星が丘元町1601-1の一部	構造	S造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	2,900 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,240 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年1月 予定	評価の実施日	2025年2月17日
敷地面積	11,224 m ²	作成者	
建築面積	1,985 m ²	確認日	2025/2/〇〇
延床面積	11,699 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合 ・外皮性能を高めることで環境負荷の低減を図るとともに、建物の配置によりまちなみへの調和と快適な歩行空間を図っている。		その他
Q1 室内環境 概ね全面的にF☆☆☆☆の建材を使用や、館内禁煙により室内の良好な空気質環境の確保を図っている。	Q2 サービス性能 ・将来の室用途変更の可能性等を考慮し、建物の階高、空間の形状・自由さのゆとりを計画している。	Q3 室外環境(敷地内) ・壁面緑化、屋上緑化により、緑の量の確保に配慮している。
LR1 エネルギー 主要な用途・電源別エネルギー消費の内訳を把握して、消費特性の傾向把握・分析を行い、妥当性の確認が可能である。	LR2 資源・マテリアル 主要水栓は節水器具とし、節水便器を使用する等水資源の保護に配慮している。【建築追記願います。】	LR3 敷地外環境 ・エキスパンドメタル外装により屋内照明の軽減を配慮し、公害抑制を図っている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

梶山女学園大学／(仮称)125WEST計画新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE Nagoya 2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.1
LR1	エネルギー	4.3	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.8	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				3.8
Q3.1	生物環境の保全と創出	4.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	地域性のある材料の使用※1 まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上			
3. 循環型社会				3.6
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 4.1	
2. 自然共生	評価点 = 3.8	
3. 循環型社会	評価点 = 3.6	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2)地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4)地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。